

11月県外学習会の開催について（通知）

11月県外学習会を下記の通り開催いたします。
今回は1泊2日の県外視察会です。どうぞご参加ください。

記

1 日 程 令和4年11月14日（月）～15日（火）1泊2日

2 テーマ 「エネルギー&環境問題」を考える

3 行 程

11月14日（月）

8：45 津駅西口 集合・出発
12：05頃 昼食（～12：55）
13：30頃 視察①「飛騨変換所」（～15：00）
15：50頃 視察②「飛騨高山まつりの森」（～16：40）
17：00頃 宿泊地着
「飛騨高山ワシントンホテルプラザ高山駅前」
[岐阜県高山市花里町5-20 TEL：0577-37-0410]
18：00頃 夕食&懇親会「松喜すし」 TEL：0577-34-4766

11月15日（火）

8：30 宿泊地発
10：30頃 視察③「馬瀬川第一水力発電所」（～12：10）
13：00頃 昼食（～13：50）
14：00頃 視察④「郡上八幡博覧館」（～15：00）
17：30頃 津駅西口着・解散

4 募集数 20名

5 参加費 20,000円（貸し切りバス、宿泊費、懇親会費等を含む）
※支払い方法については、参加申込者に別途ご連絡いたします。

6 申込締切日 10月14日（金）

別紙申込用紙にて、お申込みください。申し込み後、取り止められる場合は10月21日（金）までにご連絡下さい。それ以降の取り消しには、参加費の一部をご負担いただく場合があります。

【解題】

東日本大震災における大規模電源の被災等により全国大で電力供給が大幅に不足する事態が発生したことを契機として、東日本（50ヘルツ）と西日本（60ヘルツ）で電力を融通するための周波数変換設備の増強が進められている。岐阜県高山市に建設され、2021年3月より運用を開始した中部電力パワーグリッドの飛騨変換所（容量90万キロワット）は、東京電力パワーグリッドが長野県側の新信濃変電所（朝日村）に増設した交直変換設備と合わせ「飛騨信濃周波数変換設備」として運用されている。両設備間は亘長89キロメートルの直流幹線をつなぎ、周波数の異なる東西エリア間の電気を融通している。飛騨信濃周波数変換設備の運開で、日本国内の周波数変換設備容量は従来の120万キロワットから210万キロワットに増強された。

岐阜県下呂市の中部電力の馬瀬川第一水力発電所は、1976年に運転を開始、発電・治水・用水など多目的利用の岩屋ダムを上池、馬瀬川第二ダムを下池とする揚水発電所。揚水発電所は、上部と下部の調整池をつくり、電力が余っているときに下池から上池に電力を使って水を汲み上げ（揚水運転）、電力が必要なときにその水を下池に落として発電する仕組みであり、近年の太陽光をはじめとする再生可能エネルギーの導入拡大により、出力変動を補う調整力として、蓄電池のような役割を果たすことも増えている。

今冬においても電力需給が厳しい状況が予想される中、これらの二つの施設を視察することで、日本のエネルギー・電力事情の現状や課題について学ぶこととしたい。

（幹事：小西）

以上

申 込 用 紙

11月例会・県外学習会（11月14日～15日）に参加します。

「エネルギー&環境問題」を考える

(ふりがな)
氏 名 _____ (性別 _____) (年齢 _____ 歳)

勤 務 先 _____

連 絡 先 当日緊急連絡用： _____ (携帯電話等)